



思齊のしせい

大阪府立思齊支援学校 支援室だより
第65号 令和5年7月28日

「今までの生活」と「これからの生活」～「地縁」について考える～

今回のテーマは「今までの生活」を大切にしながら、「これからの生活」をどのように過ごしていくかです。「今までの生活」とは、「誰と」「どこで」「何をしてきたか」、その中で、出会いや学んだことや思い出を基にして、「これからの生活」でも、「誰と」「どこで」「何をしていくか」を考えていただくきっかけになればと思っています。

「今までの生活」と「これからの生活」で、変わらないものとして、「どこで」、つまり「住んでいる地域」があげられると思います。いわゆる「地縁」です。住む人が変わっても、建物がなくなっても、見える風景や吹く風や町の匂いは変わらないと言います。亡き父が晩年、時々出かけて帰って来ないということがありました。家族総出で捜し回ったものです。家の近くで座り込んでいる父を発見した時、「帰り道が分からなくなったけれど、夜が明けて山が見えたから、山をめざして帰ってきた。でも、ここで力尽きた。」と父は言っていました。父は生まれてからずっと同じ地域で暮らしていました。

父は、見慣れた風景と住み慣れた地域で、近所の神社や畑、床屋に一人で出かけて楽しく過ごしていたようで、顔を合わすとその日あったことを、ニコニコしながら話してくれました。地域との関わりと「地縁」の大切さを実感しました。

父と同じように、私も「地縁」を大切に過ごしています。ペットの猫が繋ぐ縁や、近所の人たちとの挨拶やたわいもない会話は、日々の生活に安心感や活力を与えます。



「地縁」を大切に～交流学習の推進～

私は今年、思齊支援学校中学部の「居住地校交流」を担当しています。昨年、中学部から地域の中学校（支援学級）で風船バレーやフルーツバスケットなどをして交流を深めた生徒がいました。交流する生徒同士が不安にならないように様々な工夫や事前の取り組みをしていただきました。おかげで、当日は緊張した様子で活動を始めましたが、風船バレーを一緒にするころには緊張もほぐれ、お互いに楽しめたようです。

今年は、中学部十数名の生徒たちが、地域の中学校で同級生との再会や新たな出会いを楽しみに交流する予定です。生徒たちにとって、この活動は記憶に残る「思い出」になります。記憶は何かの拍子に思い出されます。思い出せる記憶を地域でたくさん作って欲しいと思っています。この活動が、生徒たちの「地縁」と「これからの生活」をサポートする一役を担えたらと思っています。